
屁と言う名の爆弾魔

アオカビ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

屁と言つ名の爆弾魔

【Nコード】

N6045Z

【作者名】

アオカビ

【あらすじ】

この物語は

「屁との世界一くだらな過ぎる戦い。」

「基本的に音喩が酷い。」

「結果はご想像にお任せします。」

の3構成で出来ています。

（前書き）

この小説には「屁」「非常に下品な音」が含まれています。その為。屁が生理的に受け付けられない方々、食事の方々には不快に感じる内容ですので戻るボタンを押す事をお勧めします。それでも良い方は読み進めてください。「屁は出ちまったが、UNCOは引っ込めた」

俺は芋を食わなくても何もしなくても屁が出る。へ々に隠そうとするとよりデカイ屁が出るから困ったもんだ。これは親の遺伝？なので仕方がない部分もあるが、そんなことはどうでも良い。

俺の屁と一般的な屁の違いは、放屁と言うよりは爆発だ。

更には周囲に毒ガスを散布する科学兵器にもトランスフォームしてしまうので

品格破壊兵器指定を受けても過言ではないだろう。

今回は俺が朝礼という静寂の中での戦火の一部始終を聞いて欲しい。

全ての始まりは小学校での出来事だった・・・

その日の朝礼は何故か静かだった。

普段であればうるさくて先生が注意をするほどであるのに何故か静かだった。

意味のわからない校長の話に俺は鼻をほじりながら聞いてたが腹に妙な違和感を覚えた。

「んっ？これは・・・出る！」

この究極の事態に焦ったがそんなに風量は多くない。

スカシで上手く出せばこの場は乗り切られる！

だが、このままでは床に反響してよりデカイ屁が出る！

そして、体育座りの中で手を後ろに回し尻との接地面を5ミリほど開けて振り絞った結果が、

「ビュッブボブブ・・・」

屁と言う名の爆弾魔が俺に宣戦布告をした瞬間でもあった。

中学時代でも爆弾魔は健在だった。

その日は遅刻ギリギリだったがなんとか朝礼には間に合った。普段通りで体育座りで話を聞いている時、腹に違和感を覚えた。

「またか！？何故こんな時に!？」

今回はマズイ、遅刻ギリだったので適度な運動量によって屁の容量が増量し、昨日は肉と卵系の料理を食べたので有毒ガス化することだ。音を出すのはもつとマズイ！俺はまたしてもスカシをすることにした。前回は接地面が5ミリだったから今回は2ミリに設定し、足を組み変える事によって出す量を調整する方法にした。だが、動いた瞬間に暴発する可能性もある。慎重に足を組みかえた結果、

「ぷうくん、プイッププ・・・」

その後どうなったかは考えるまでも無い・・・。

しかし、2度ある事は3度ある。

高校時代でも俺事ある毎に爆弾魔は俺に爆弾を仕掛ける。

その日の朝礼は9月なのに非常に寒かった。体育館での朝礼の中セーターを着込まなかったので多少寒さに震えて腹に少し違和感があったがその時は魔の予兆であったとは知る由も無かった。しばらく聞いているうちにケツに違和感を覚えた。

「ヤバい！ケツ筋が緩んでる！」

寒さにやられていてケツの収縮率が落ちて、屁も爆発スタンバイに

ちょうど良い量に増量していた。俺には秘策があった。それは、片ひざ立ち座りで足のある方にケツを移動させて暴発を阻止する。家での成功率は98%それに足の下の床も暖かくて最高の状態だ！

「これなら出来る！」

順調にケツを動かした矢先！

「お前ら寝てんじゃねえ！」

と教員の一喝で計算違いでケツの着地地点を冷たい床にしてしまった！

「しまった！肛門は温度差に弱い！」

俺の肛門やケツ筋は温度差に非常に弱く、2〜3度の温度差ですぐに暴発してしまう。

あわてて戻そうと思った矢先、

「プビツ！？ブリュリユルルル・・・」

結果は察してくれ・・・

今いる専門学校でも相変わらず爆破テロが収まる気配がない。

その日はやや風邪気味もあってか、体調が悪くだった。だが、作品のプレゼンは単位に関わるので成功させたい。やや机に伏せ気味で他社のプレゼンを聞いていた時、腹に激痛を覚えた。

「ん？アカ　ンツ！！！」

昨日から中々屁が出ずに溜まっていたので許容量を越えていた。しかも只の屁ではなく有毒ガス化の要因も含んでいる！クラス内でのプレゼンなので座っている間に処理をし、発表中に屁をするのは絶対に防がなくてはならない。だが、今回の俺には秘策がある。

「ケツ筋のマッサージだ！」

とは言っても、ケツを引つ込めたり戻したりするマッサージだ。高校時代から練りに練って今に至るが成功率はギャンブルだ。

（真似をしても良いが、いざという時の保証は絶対に出来ないぜ！？）

クイツ！キュツ！クイツ！キュツ！

絶妙なりズム感で爆弾を制御が出来た。

「シユウ~~~~」

と蚊の鳴くような音を立てて徐々に解除されていく。

「よしこの調子でいけば解体する事が出来る！」

順調に解体作業が行われている中、俺の名前が呼ばれた。

「はいっ！」

と返事し立ち上がった瞬間に悲劇は起こった。

「ブォウ~~~~~~~~ツ!!!」

とら秒、今までにない超ド級の屁が出たのだ。俺は屁に勝つ事が出来ないのか……。

(後書き)

どうもですっ！新参者のアオカビです。

初投稿でヘタレ文ですが最後まで読んでくれてありがとうございます。

短編ですが、この内容はほぼ100%

「私の体験談です。」

作品の感想や屁に対しての批評・意見を書いてくれる方がいると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6045z/>

屁と言う名の爆弾魔

2011年12月20日02時52分発行